

## 2019年度 大学全体 自己点検・評価報告書

## [第3章] 教育研究組織

## 3.1. 現状説明

3.1.1. 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

評価の視点1：学部・研究科の設置は、建学の精神に基づいた教育理念に照らして、適切か。

評価の視点2：附置研究所、センター等の設置は、建学の精神に基づいた教育理念に照らして、適切か。

評価の視点3：教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮に対応しているか。

本学の建学の精神に基づいた教育理念は、知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて自ら考える力を養う教育に努め、知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指すこととしている。

さらに本学は、「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践することで、教育と研究の場において、総合大学としての特性を生かし、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、他文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ調和のとれた文明社会を建設することが出来る人材の育成を図ることを教育の使命としている。（資料 A-1 p.1、A-2、A-3 p.21）

本学は、この教育理念と教育の使命を具現化するため、札幌から九州・沖縄において8キャンパス、13の研究所及びセンター、4つの付属病院、更にはグローバルな教育・研究分野の展開を実効的なものとするために、国外に東海大学ヨーロッパ学術センター、東海大学パシフィックセンター、東海大学海外連絡事務所（ウィーンオフィス・ソウルオフィス・アセアンオフィス（バンコク事務所・ラカバン事務所（モンクット王ラカバン工科大学内））・極東オフィス（極東連邦大学内））を設置している（資料 A-1～3、C-1～2）。詳細は以下の通りである。（2019年5月1日現在）

## ① 学部・研究科

キャンパス名	組織	設置されている教育組織
湘南キャンパス	学部	文学部、文化社会学部、観光学部（1年次）、政治経済学部、法学部、教養学部、体育学部、健康学部、理学部、情報理工学部、工学部（工学部医用生体工学科（1、2年次湘南））
	大学院	文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、法学研究科、人間環境学研究科、芸術学研究科、理学研究科、工学研究科、体育学研究科

	理工系博士課程 (全キャンパス共通)	総合理工学研究科、地球環境科学研究科、 生物科学研究科
代々木キャンパス	学部	観光学部（2年次以降）
高輪キャンパス	学部	情報通信学部
	大学院	情報通信学研究科
清水キャンパス	学部	海洋学部
	大学院	海洋学研究科
伊勢原キャンパス	学部	医学部、健康科学部、工学部医用生体工学科 (3、4年次伊勢原)
	大学院	医学研究科、健康科学研究科、工学研究科 医用生体工学専攻
熊本キャンパス	学部	経営学部、基盤工学部、農学部*
	大学院	農学研究科*
札幌キャンパス	学部	国際文化学部、生物学部

\*熊本地震の関係で、2017年度より熊本キャンパスに移動

## ②研究所・研究センター（資料 C-2）

既存の文明研究所、海洋研究所、総合医学研究所、教育開発研究センター、スポーツ医学研究所、総合農学研究科、沖縄地域研究センター、総合科学技術研究所、情報技術センター以外に、学術の進展や社会の要請との適合性に対応するため、マイクロ・ナノ研究開発センター、先進生命科学研究科、総合社会科学研究所、平和戦略国際研究所を設置している。本学の研究所・研究センターは、建学の理念に基づき、以下の理念を掲げて活動している。

1. 総合大学の研究所・研究センターとして、建学の理念に文理融合を掲げる本学の特性を活かし、学際的・先端的な研究を国際的水準において展開する。
2. 産・官・学の連携を取りながら、研究成果を広く社会に還元する。
3. 本学における学術研究をリードするとともに、併せてその研究プロセスや研究成果をより質の高い教育に結びつけるよう努力する。

## ② 医学部附属病院（資料 A-1 p. 34-35、A-2 pp. 142-145）

本学では、地域の中核病院として最先端の医療を提供するため、伊勢原、東京、大磯、八王子に4つの附属病院を有し、質の高いチーム医療による高度な医療サービスを提供するとともに医学部の医学科（医師）及び看護学科（看護師）の教育の場としている。

## ③ 教育・研究をサポートする教育関連の組織（資料 C-1）

現代文明論教育研究機構、現代教養センター、チャレンジセンター、国際教育センター、別科日本語研修課程、情報教育センター、課程資格教育センター、高輪教養教育センター、清水教養教育センター、熊本教養教育センター、阿蘇教養教育センター、札幌教養教育センター、教育支援センター、総合情報センター、附属図書館、出版部、心理教育相談室、

松前記念館、放射線管理センター、スポーツ教育センター、健康推進センターが設置されている。また、2017年度より To-Collabo（トコラボ）推進室とエクステンションセンターを統合して、学園を取り巻く地域との連携を深めるため、地域連携センターを設置した。

④ 国内外の付属機関・施設（資料 C-1）

ヨーロッパ学術センター、パシフィックセンター、海外連絡事務所、婦恋高原研修センター、海洋科学博物館、自然史博物館、三保研修館、望星学塾、松前重義記念館、サテライトオフィス、学園史資料センター、海洋調査研修船「望星丸」、山中湖セミナーハウス、銀嶺荘、国際交流会館、校友会館、国際友好会館が設置されている。

以上のように、本学は、学術の発展や時代の変化、社会の要請に応え、継続的に改革の推進に取り組むにふさわしい教育組織を整備している。

**3.1.2. 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点1：教育研究組織の適切性について、根拠（資料、情報）に基づき定期的に点検・評価が行われているか。

評価の視点2：自己点検・評価結果に基づいた改善・向上が行われているか。

上述したように、本学は、多面的なものの見方や歴史観、世界観、人生観をはぐくむ場として、また研究の成果を挙げていく組織として、様々な専門分野を包括する教育研究体制となっており、まさに組織は理念・目的と整合している。また、時代の変化と共に、将来、社会に必要とされる人材の育成をおこなっていくために、常に現状の組織を見直し改革を実施していく。

具体的には、学部等の教育研究組織についての検証は、学長・副学長（企画・戦略担当）の体制の下、大学運営本部会議で定期的に議論・検証を行い、東海大学改組・改編委員会（資料 C-3）において審議し、審議した内容は、学部長会議・大学院運営委員会・専門職大学院運営委員会の議を経て決定している。学部長会議・大学院運営委員会・専門職大学院運営委員会は、全学部、研究科、事務系部署の長が出席メンバーとなっており、多くの学内関係者の目を通すことによって、改組・改編内容の適切性を担保している。

伊勢原キャンパス内では医学部 IR 室が新たに 2019 年度に設置され、大学 IR 委員会へオブザーバーとして参加するようになった。特に、医師養成に関しては、厚生労働省が所管する内容の教育も多く、独自の視点で IR 業務を推進する必要がある。今後は、大学全体の大学 IR 委員会と連携をとりながら、教育研究の質を改善するためにデータに基づく分析を推進していく（資料 C-4）。

2019 年度は、建学 80 周年にあたる 2022 年 4 月に向けて、「日本まるごと学び改革実行プロジェクト」と題した全学的な改組改編を構想した。現在のキャンパス構成を見直して全国 5 キャンパス 8 校舎に整備するほか、新学部の設置や学科を再編し、23 学部 62 学科・専攻体制とする内容となっている。これは、高度に発展した社会において文理融合的教育が必要なことや、第 4 次産業革命が導く Society5.0、グローバル化、地域創生などの社会全体の構造変化に対応するものである。各キャンパスにおける文理の多様性を確保するた

めに、東京キャンパス・高輪校舎は、これまでの情報通信学部、国際学部、経営学部、観光学部を設置する。東京キャンパス・渋谷校舎には政治経済学部を移動する。湘南キャンパスでは、工学部を改組し建築都市学部を立ち上げ、情報理工学部情報メディア学科を新設し、児童教育学部を新設する計画である。静岡キャンパスは海洋学部を改組して新たに人文学部を加える予定である。九州キャンパス・熊本校舎でも、学部改組が行われ文理融合学部を新たに設置し、農学部は新たな九州キャンパス・臨空校舎に収められる予定である。また2019年度から、2021年度に予定している全学的な事務組織体制の改組についても検討がはじめられ、2020年度内にまとめられる予定である。

大学全体の組織構成についての検証は、学長の諮問機関である東海大学大学評価委員会（資料C-5）において、毎年度作成する「自己点検・評価報告書」の検討や見直しが行われ、その結果は、教育研究年報として東海大学オフィシャルサイトに公開している（資料C-6）。また、本学では、第Ⅲ期中期目標を具現化するために、学部・研究科・研究所・研究センター・教育・研究をサポートする附属機関全てと、一部の国内外の附属施設（資料A-3、C-1、2、3）において、毎年度事業計画書（資料B-8）を作成している。作成された事業計画書は、大学運営本部戦略プロジェクト室にてとりまとめ、各組織に対して学長、副学長らが直接フィードバックしている。これらの自己点検・評価活動を行うことにより、本学の教育研究組織の適切性は、定期的に検証されている。

### 3.2. 長所・特色

激しい社会の変革がある中で、2017年度に東海大学は創立75周年を迎えることができた。四半世紀後の100周年に向けて、さらなる大学改革を進めることで、QOLの向上によって社会に貢献できる大学に進化させなくてはならない。

2017年4月に開設されたGlobal AGORAは学生から好評を得ており、イベント数は62件、来場者数は延べ15,700人に達した（資料C-7）。新たに発足した地域連携センターも、現代教養センターに下に組み込まれたチャレンジセンター等と連携して、大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベントであるグローバルフェスタを実施するなどの、地域連携活動を盛んに実施することができている（資料C-8）。このチャレンジセンターは、現代教養センターとともにシティズンシップ教育の一環であるパブリック・アチーブメント型教育の実践の場としても位置付けられ、ボランティア、国際交流、ものづくり、地域活性などの活動を展開しており、高い成果を挙げている（資料C-9）。

本学の特色として、体育学部や関連学部とともに、スポーツ教育センター、スポーツ医学研究所、教学部などが、スポーツを通じた学生の育成に力を注ぎ、輝かしい成績を得ている（資料C-10）。海洋調査研修船「望星丸」を用いた、海洋調査や海外研修航海をはじめとする活動も、他にはない本学独自の特色となっている（資料C-11）。

### 3.3. 問題点

本学における研究所・研究センターは、歴史的には法人の直轄機関として運用されてきた経緯があり、一部の研究者にとっては有用であるが、大学院の機能強化という点では役割を十分に果たせていない実態がある。現時点では大学院は学部の施設を活用することを基本としており、共通利用できる設備が限られている状態にある。特に、大学院生にとっ

ては研究所機能を研究に活用できないことも多く、改善しなくてはならないポイントである。今後は、学部等の研究設備を研究所に集約し、実験機器等の利用効率を高め、研究環境の向上を目指す。

また、2019年4月時点での本学の耐震化率は、付属病院を含む高等教育機関の平均で77.6%であり、私立大学等の平均である92.8%よりも低いレベルにある。現在、学部改組などに伴って校舎の新築や耐震補強工事が進められているが、老朽化した建物を早期に解体するとともに、耐震補強を優先的に進める方策を立てて、できる限り早期に解決する。

### 3.4. 全体のまとめ

本学の教育研究組織は、創立者の建学の精神に基づいた教育の使命と教育理念を具現化するため、札幌から九州・沖縄において7キャンパス、13の研究所・研究センター及び教育センター、4つの付属病院、更には国外に東海大学パシフィックセンターや東海大学ヨーロッパ学術センター等を設置し、総合大学としてのスケールメリットを生かした組織体制になっている。また、自己点検・評価活動も毎年度実施されている。

### 3.5. 根拠資料

- A-1 学校法人東海大学 学園総覧 2019
- A-2 東海大学オフィシャルサイト（建学の精神） <http://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/spirit/>
- A-3 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2019（大学案内）
- B-8 2019年度 学部等事業計画
- C-1 東海大学オフィシャルサイト 教育支援・施設 <http://www.u-tokai.ac.jp/about/research/>
- C-2 東海大学研究所規程
- C-3 東海大学改組・改編委員会規程
- C-4 東海大学大学 I R 運営委員会規程
- C-5 東海大学大学評価委員会規程
- C-6 教育研究年報 [http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual\\_report/](http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/)
- C-7 Global AGORA リーフレット
- C-8 TOKAI グローカルフェスタ 2019 リーフレット
- C-9 2019年度 チャレンジセンター活動報告書
- C-10 東海大学オフィシャルサイト スポーツインフォメーション 2019年度ニュース [https://www.u-tokai.ac.jp/campus\\_life/tokai\\_sports/news/2019.html](https://www.u-tokai.ac.jp/campus_life/tokai_sports/news/2019.html)
- C-11 東海大学オフィシャルサイト 海洋調査研修船「望星丸」 <https://www.u-tokai.ac.jp/about/research/facilities/bouseimaru/>